

注意報

注意報

注意報

注意報

注意報

注意報

注意報

23高虫防第76号
平成24年3月1日

関係機関長 様

高知県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予察注意報第4号を送付します。

平成23年度病虫害発生予察注意報第4号

平成24年3月1日
高知県病虫害防除所

キュウリ黄化えそ病 / メロン黄化えそ病

1. 対象作物 施設キュウリ、施設メロン
2. 発生地域 県全域
3. 病原名 メロン黄化えそウイルス (*Melon yellow spot virus: MYSV*)
4. 媒介虫 ミナミキイロアザミウマ
5. 発生時期 3月上旬以降
6. 発生程度 多
7. 注意報発表の根拠
 - 1) 平成24年2月第4半旬に行った巡回調査の結果、黄化えそ病が県中央部の抑制および促成キュウリで平年の約1.5倍の発生面積となっており、発病株率も全域で平年より高い(表-1)。また、11月の調査以降、2月調査時まで発生面積が平年より多く、増加傾向が続いている(図-1)
 - 2) 黄化えそ病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマは平年並~やや多発生(表-2)であり、今後の気温の上昇と、各産地で薬剤感受性の低下事例が増加していることから、多発生傾向が続くと予想される。
 - 3) 黄化えそ病の発病株率が高く、ほ場内に感染源となるウイルス感染株が多いことから、今後ミナミキイロアザミウマの増加に伴って、新たな感染が継続すると予想される。
 - 4) さらに、今後、後作メロン、後作キュウリにおいても生育初期からの感染が懸念される。
8. 防除対策
 - 1) 発病株の早期発見と、除去に努め、伝染源をなくす。
 - 2) 媒介虫であるミナミキイロアザミウマの徹底防除が重要である。特に、本病の発生したハウスに後作のメロン、キュウリを作付けする場合は注意が必要であり、前作のミナミキイロアザミウマをほ場内に残さないように注意する。またミナミキイロアザミウマの寄生した苗を持ち込まないよう育苗時から防除を徹底する。
 - 3) ミナミキイロアザミウマの防除に当たっては、薬剤防除のみでなく、ハウス開口部への防虫ネットの被覆、栽培終了時のハウスの蒸し込み処理やほ場及び周辺の除草などを必ず行う。また、シルバーポリマルチや紫外線カットフィルムも防除効果が高いので、これら技術を組み合わせることで総合的に防除する必要がある。

表-1 発生程度別キュウリ黄化えそ病発生面積(ha)

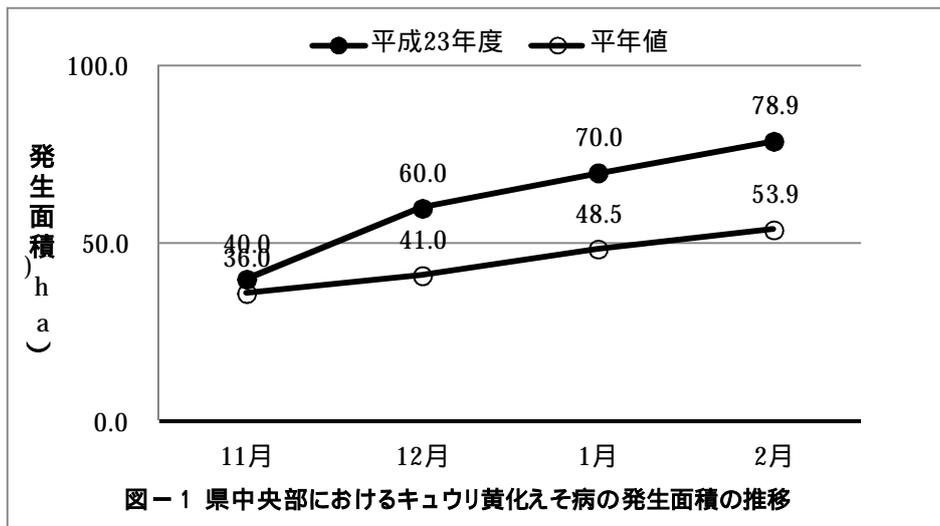
	栽培面積(ha)	甚	多	中	少	合計	平均発病株率(%)
中央部	90.0	1.2(1.0)	18.8(0.2)	10.0(7.7)	48.9(45.0)	78.9(53.9)	7.5(2.0)
中西部	25.0		1.0(0.6)	2.6(2.0)	7.1(8.2)	10.7(10.8)	4.2(1.4)
西部	25.0	0.5(0.1)	1.8(0.6)	2.5(1.7)	7.4(9.5)	12.2(11.9)	7.1(3.3)
合計	140.0	1.7(1.1)	21.6(1.4)	15.1(11.4)	63.4(62.7)	101.8(76.6)	6.3(2.2)

注) ()内は平年値

表-2 キュウリでの発生程度別ミナキイロアザミウマ発生面積(ha)

	栽培面積(ha)	甚	多	中	少	合計
中央部	90.0				67.5(47.2)	67.5(47.2)
中西部	25.0		0(0.3)	0(0.8)	5.0(5.4)	5.0(6.5)
西部	25.0	0(0.1)	0.2(0.3)	1.2(0.9)	16.7(10.9)	18.1(12.2)
合計	140.0	0(0.1)	0.2(0.6)	1.2(1.7)	89.2(63.5)	90.6(65.9)

注) ()内は平年値



ミナキイロアザミウマ成虫



ミナキイロアザミウマ幼虫



メロン葉での病徴



キュウリ果実での病徴



メロン果実での病徴